



屬	臨時部	合計	經常部	計	興亞行政 機關設置 ニ伴フ増
	四七			一六	六
	四七			一八	六
	〇			二	〇

●內閣所屬部局及職員官制

(抄)

第七條 內閣ニ左ノ所屬職員ヲ置ク

書記官長	勅任
恩給局長	勅任
統計局長	勅任
印刷局長	勅任
書記官	專任四人 奏任
理事官	專任二人 奏任
內閣總理大臣	專任二人 奏任
祕書官	專任二人 奏任
恩給局書記官	專任二人 奏任
恩給局事務官	專任一人 奏任
統計局書記官	專任二人 奏任

內閣

統計局統計官 專任四人 奏任

印刷局書記官 專任三人 奏任

印刷局理事官 專任七人 奏任

印刷局技師 專任二十五人 奏任 内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

統計局統計官補 專任十人 判任

屬 專任二百人 判任

技手 專任二百十六人 判任

第二十條 内閣官制第十條ノ國務大臣ニ附屬スル職員トシテ内閣ニ國務大臣秘書官專任三人以内及屬專任三人以内ヲ置クコトヲ得

●内閣所屬臨時職員設置制

(抄)

第一條 内閣ニ臨時左ノ所屬職員ヲ置キ内閣官房ニ屬セシム

一 恩給ノ臨時取扱ニ關スル事務ニ従事スル者

屬

專任三人

二 昭和十五年國勢調査ニ關スル事務ニ従事スル者

屬

專任一人

三 支那事變行賞ニ關スル事務ニ従事スル者

屬

專任~~八~~八人

四 興亞行政機關設置ニ伴フ増加事務ニ従事スル者

書記官

專任一人

屬

專任六人

内閣

法制局 第一〇〇號

昭和十七年四月十五日

癸案

十月三十日

法制局

局及職員官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 璽

年 月 日

内閣總理大臣

本件一應返戻候ニ付可然  
御處理相成度候  
法制局

勅令第 號

内閣所屬部局及職員官制中左ノ通改正ス

第七條中「屬 專任二百九人」ヲ「屬 專任二百十人」ニ改ム

第二十條中「及屬專任六人以内」ヲ「及屬專任三人以内」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

閣甲一六六

内

閣

内閣官房總務課

御中

理由書

内閣官房ニ於テ官吏定員ノ合理化ニ伴ヒ屬七人ヲ減少シ時局ニ伴フ特殊事務處理ノ爲屬五人ヲ増員スルノ要アルニ依ル

内閣

朕内閣所屬臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

年月日

内閣總理大臣

勅令第 號

内閣所屬臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第一條第三號中「屬 專任六人」ヲ「屬 專任八人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内閣



理由書

内閣官房ニ於ケル支那事變行賞ニ關スル事務ニ従事スル臨時職員中官吏定員ノ合理化ニ伴ヒ屬一人ヲ減員シ褒賞物件ノ増加ニ伴ヒ屬三人ヲ増員スルノ要アルニ依ル

閣甲一八八

昭和十七年五月二日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十七年五月四日  
昭和十七年五月九日

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

若

海軍大臣

不

商工大臣

不

厚生大臣

為

内務大臣

春

司法大臣

不

遞信大臣

至

餘六回等大臣



大藏大臣

典

文部大臣

不

鐵道大臣

不

陸軍大臣



農林大臣

不

拓務大臣

不

教育審議會

官制廢止ノ件

件

件

件

件

件

件

七

法制局



起案上申ス依テ別紙ノ通閣議決定セラレ可然

ト認ム  
本件ハ關係各廳ト協議濟  
勅令案

別紙ノ通

内閣總理大臣

吉田首相

閣議決定日付 昭和二十一年八月二十一日

朕教育審議會官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十七年 五月 八 日

内閣總理大臣

勅令第四百八十九號

教育審議會官制ハ之ヲ廢止ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

諸委員會等、整理ノ趣旨ニ依リ教育審議會ヲ廢止スルノ必要アルニ依ル

●教育審議會官制

昭和十二年十二月十日  
勅令第七百一十一號

朕文物ノ進運及中外ノ情勢ニ鑑ミ國本ヲ無窮ニ培ハンガ爲内閣ニ委員會ヲ設置シ教育ノ内容及制度ヲ審議シ其ノ刷新振興ヲ圖ラシムルノ必要ヲ認メ教育審議會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
(總理大臣副署)

教育審議會官制

第一條 教育審議會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジテ教育ノ刷新振興ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

教育審議會ハ前項ノ事項ニ付内閣總理大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 教育審議會ハ總裁一人及委員六十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 總裁ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

委員及臨時委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 總裁ハ會務ヲ總理ス

總裁事故アルトキハ内閣總理大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 文部大臣ハ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

内閣總理大臣ハ必要ニ依リ又ハ總裁ノ要求アルトキハ各廳官吏ヲシテ會議ニ出席シ意見ヲ陳述セシムルコトヲ得

第六條 教育審議會ノ議事ニ關スル規則ハ内閣總理大臣之ヲ定ム

第七條 教育審議會ニ幹事長及幹事ヲ置ク

幹事長ハ文部次官ヲ以テ之ニ充ツ總裁ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

幹事ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ上司ノ指揮ヲ承ケ

庶務ヲ掌理ス

第八條 教育審議會ニ書記ヲ置ク



書記ハ内閣ニ於テ之ヲ命ズ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
文教審議會官制ハ之ヲ廢止ス

文  
照

日本標準規格B4判(十一行全)(山田納)

内  
閣

内閣關係

◎委員會整理

(昭和十五年九月十九日  
閣議決定)

名	稱	設置根據	構成	主管廳 存廢意見	存廢決定	備考
(略)						
教育審議會		勅	官民		廢	現在ノ附議事項ヲ決定シテ廢止
(略)						

(本官制ニ據ルニ付テハ又部省ト連結條法有リ)

内閣



一、教育審議會官制

昭和十二年十二月十日公布（勅令第七百一十一號）

一、政府ノ諮問

諮問第一號「我が國教育ノ内容及制度ノ刷新振興ニ關シ實施スベキ方策如何」  
昭和十二年十二月二十日

一、諮問第一號ニ對スル答申

- |                      |            |    |
|----------------------|------------|----|
| 1 青年學校義務制實施ニ關スル件     | 昭和十三年七月十五日 | 答申 |
| 2 國民學校、師範學校及幼稚園ニ關スル件 | 昭和十三年十二月八日 | 答申 |
| 3 中等教育ニ關スル件          | 昭和十四年九月十四日 | 答申 |
| 4 高等教育ニ關スル件          | 昭和十五年九月十九日 | 答申 |
| 5 社會教育ニ關スル件          | 昭和十六年六月十六日 | 答申 |
| 6 各種學校其ノ他ノ事項ニ關スル件    | 昭和十六年六月十六日 | 答申 |
| 7 教育行政及財政ニ關スル件       | 昭和十六年十月十三日 | 答申 |

文 部 省

一、教育審議會、介建議書ニ關スル件

昭和十六年十月十三日

答申

一、教育審議會、介建議書ニ關スル件

昭和十六年六月十六日

答申

1 國語ニ關スル件

昭和十三年十二月八日

建議

2 國民學校教員ノ優遇並ニ師範學校

昭和十五年六月十九日

答申

3 制度刷新ノ急速實施ニ關スル件

昭和十六年十月十三日

建議

5 諮詢機關設置ニ關スル件

昭和十六年十月十三日

建議

4 教育尊重ニ關スル件

昭和十六年十月十三日

建議

1 青年學堂等設置實施ニ關スル件

昭和十三年十月十五日

答申

一、諮問第一號ニ據ルヲ答申

ハ、ハ式策成同

昭和十二年十二月二十日

一、諮問第一號「婦女國語教育ノ内容及實施、國語教育ノ内容及實施、國語教育ノ内容及實施」ニ關シ、實施ニ

一、知事ノ諮問

一、教育審議會官廳

昭和十二年十二月十日公布（總令第七百一十一號）

諮詢機關設置ニ關スル建議

現下ノ時局ニ於ケル教育ノ重要性ニ鑑ミ政府ハ本審議會廢止後ニ於テモ文政ニ關スル重要事項ヲ審議スル爲内閣ニ有力ナル諮詢機關ヲ設置セラレンコトヲ望ム  
右及建議候也

昭和十六年十月十三日

教育審議會總裁 男爵 鈴木貫太郎

内閣總理大臣 公爵 近衛 文 麿 殿

閣下第一九〇號

案起

昭和十七年五月七日

裁可

昭和十七年五月九日

施行

昭  
和  
十  
七  
年  
五  
月  
十  
二  
日  
公  
布

昭  
和  
十  
七  
年  
五  
月  
十  
二  
日  
公  
布

内閣總理大臣



内閣書記官長



内閣書記官

内閣官房會計課長 佐藤

シ  
總力戰研究所研究生規程中改正ヲ要スルモノアリ依テ別紙ノ通閣令公布ノコトニ決定相成然ルベシ

閣令案

八

# 別紙、通

今案

國會公報  
 五  
 總

國會公報

本

國會公報

本

國會公報

本

國會公報

本

◎閣令第十五號

總力戰研究所研究生規程中左ノ通改正ス

昭和十七年五月十二日

内閣總理大臣

第六條ノ二 總力戰研究所所在地外ヨリ入所ヲ命ゼラレタル研究生ニシテ特ニ必要アリト認ムル者ニハ内閣ヨリ毎月一定額ノ手當ヲ支給スルコトアルベシ

附則

本令ハ昭和十七年四月分ヨリ之ヲ適用ス

内閣



總力戰庶發第一二二號

昭和十七年五月四日

總力戰研究所長 遠藤 喜

內閣總理大臣 東 條 英 機 殿

總力戰研究所研究生規程改正ノ件  
標記ノ件別紙案ノ通閣令改正相成度此段及內申候也



閱甲一九〇

總力戰研究所

◎ 閣令 第 號

總力戰研究所研究生規程中左ノ通改正ス

昭和十七年 月 日

内閣總理大臣 東 條 英 機

第六條ノ二 總力戰研究所所在地外ヨリ入所ヲ命ゼラレタル研究生  
ニシテ特ニ必要アリト認ムル者ニハ内閣ヨリ毎月一定額ノ手當  
ヲ支給スルコトアルベシ

附 則

本令ハ昭和十七年四月分ヨリ之ヲ適用ス

總力戰研究所



理由書

研究所々在地外ニ在勤スル者研究生ヲ命セラレ當所ニ入所シ東京  
ニ滞在スル場合ハ本來ノ俸給以外ニ相當ノ給與ヲ要スル所從來右  
ハ專ラ所屬廳等ノ負擔ニ屬セシメタルモ實情ニ照シ適當ナラザル  
場合アルヲ以テ當所ヨリ該手當ヲ支給シ得ル様改ムルノ要アルニ  
由ル

# 参照

◎閣令第七號

總力戰研究所研究生規程左ノ通定ム

昭和十六年四月十四日

内閣總理大臣 公爵 近 衞 文 麿

總力戰研究所研究生規程

改正昭和十七年三月三十日閣令第六號

第一條 總力戰研究所研究生（以下單ニ研究生ト稱ス）ハ各縣高等官及

官吏以外ノ者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

第二條 研究生ノ入所資格、定員、各省其ノ他ニ對スル割當及餘額方法

ニ關シテハ每年内閣總理大臣ノ定ムル所ニ依ル

第三條 研究生ノ教育訓練期間ハ一年トス

第四條 研究生ハ専ラ教育訓練ヲ受クルモノトシ之ヲ他ノ職務ニ從事セ

シメザルモノトス

第五條 研究生ハ教育訓練ニ付總力戰研究所長ノ指揮監督ヲ承ク

第六條 研究生教育訓練ニ付旅行ヲ命ゼラレタルトキハ内閣ヨリ旅費ノ支給ヲ受クルコトヲ待テ総力或研究所所在地外ニ在勤スル研究生候補者ニ對シ同研究所ニ出頭ヲ命ジタル場合及右研究生退所後在勤地ニ歸還スル場合亦同ジ

第七條 總力或研究所長ハ研究生中疾病其ノ他ノ事故ニ依リ不適當ト認ムル者アルトキハ之ヲ内閣總理大臣ニ具申シ内閣總理大臣ハ其ノ研究生ヲ免ズルコトヲ待

第八條 總力或研究所長ハ教育訓練ヲ修了シタル研究生ニ對シ修了證書ヲ附與ス

第九條 前各條ニ規定スルモノノ外研究生ニ付必要ナル事項ハ總力或研究所長之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

研究生給與額ニ關スル件

一 手當月額 一五〇圓（各人均等）

二 手當支給ノ要スル研究生六名

三 手當算定ノ基礎

内國旅費規則ニ據ル高等官六等以下ノ者ニ支給スベキ滞在旅費（別紙参照）ノ範圍内ニ於テ妥當ナリト認メタル金額

昭和十七年五月八日  
17.5.8  
官支

昭和十七年五月  
17.5.  
普

別紙表第拾号

滞 在 費 (高 等 官 六 等 以 下 ノ 額)

	日當宿泊一日分	規定ニ依リ減額	滞 在 費	
最初ノ一日分	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一割減
次ノ二〇日分	一、二〇〇	一〇、八〇	二一、六〇	二割減
次ノ三〇日分	一、二〇〇	九、六〇	二八、八〇	三割減
次ノ四〇日分	一、二〇〇	八、四〇	三三、六〇	四割減
次ノ二六五日分	一、二〇〇	七、二〇	一、九〇八、〇〇	
計三六五日分(平均)			二、八六八、〇〇	
平均一ヶ月分			二、三九〇	

總力戰研究所

遠隔地在勤者ニシテ研究生ヲ命ゼラレタル者中  
當所入所中手當支給予定者

官 職

第四高等學校教授  
朝鮮總督府事務官  
台灣總督府警察官及司獄官練習所教官  
滿洲國經濟部參事官  
國務院參事官  
北支派遣軍囑託

氏 名

森河 博  
橋本 正之  
箕山 晴二  
夏目 忠雄  
双川 喜文  
尾田 定顯

在 勤 地

金澤  
京城  
台北  
新京  
北支保定

總力戰研究所

總力戰研究所豫算

科目	單價	昭和七年度豫算額		昭和七年度豫算額		昭和七年度豫算額	
		員數	金額	員數	金額	員數	金額
內 俸 閣			三五九,五七四	二九,五五七	二二,七九四	一六四,七四一	五〇七,五五二
勅任俸 給		一	一二五,四二四	九,七四〇	一三,七九四	一三,三三四	一四九,八六二
所 長		一	二四,四〇〇			二四,四〇〇	二四,四〇〇
所 員		四	一八,六〇〇			一八,六〇〇	一八,六〇〇
勅任俸 給			六四,三六〇	四,四〇〇		一八,七〇〇	七,一六六
所 員		一七	六一,八八〇	〇,三六四		五,四六〇	五,四六〇
同							
事務 官		一	二四,八〇〇			二四,八〇〇	二四,八〇〇
體育 官							
判任俸 給			一五,七六〇	三,九四〇		一八,三六〇	一八,三六〇
助 手		九	八八,六五〇	三,九五五		三,〇六〇	三,〇六〇

科目	單價	數量	總額	減額	實額	追加	合計
書	九八五	七	六八九五	九八五	二一〇	四	六〇二〇
賞與	〇〇		〇	〇	一四〇〇		三五四四
事務	〇〇		二三四一五〇	一九八一七	一三三七四		三五六九〇
廳費	〇〇		六七四四〇	一三三三三			三五七六九〇
普通廳費	二〇〇	三九	四二九〇	五五〇		一三	九八八三九
特別廳費	〇〇		五六一五〇	二〇〇八三		一三四	四八一五
官吏	〇〇	三九	七八〇〇	五〇〇〇		一三	八七五〇
研究員	二〇〇		四三三五〇	一〇〇八三		二五	五〇〇〇
人員	〇〇		〇	〇			七九二六七
圖書	五	六〇〇	三〇〇〇	五八三			三九九一七
印刷物	〇〇	五七五〇	一、五〇〇	五〇〇			一、五〇〇
圖書資料	〇〇		〇	〇			〇
整備費	〇〇		〇	〇			〇
自給車	〇〇		〇	〇			〇
用品	五〇〇	三	一、五〇〇	〇			一、五〇〇



電信料	初度調牛費	教室備品	講堂備品	各所修繕	內國旅費	高等官	研究生	判任官	研究生入退所 旅費	外國旅費	歐 米	支那及南洋
一三五	二〇〇	二〇〇	一	二〇〇	二〇〇	四〇〇	四〇〇				一〇〇〇〇〇	
〇〇						〇〇	〇〇				〇〇	
一〇		四	一	二	三	一	三	五			一	
一三五〇	一一〇	八〇〇	三〇〇	二〇〇	二六〇	一四〇	一四〇		五〇〇	五〇〇	一〇〇	四五〇
	一一〇	八〇〇	三〇〇	二〇〇	一六〇				三〇〇	三〇〇	二〇〇	
一〇〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	三〇〇	二六〇	二六〇
一三五〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	三〇〇	二六〇	二六〇

科目	單價	員數	昭和十六年度預算		增減額		員數	追加預算	
			金額	類	金額	類		金額	類
所員	10000	5	10000	類	7000	類	5	17000	類
研究員	10000	35	35000	類	19000	類	35	54000	類
雜給及雜費			8291	類	3334	類		11625	類
給與			3847	類	316	類		6704	類
參與手當	1000	1	1000	類		類	1	1000	類
講師駕託手當	500	3	1500	類		類	3	1500	類
事務駕託手當	1000	1		類		類	1	1000	類
研究員手當	2500	2	5000	類		類	2	5000	類
研究員給與	1800	5	9000	類		類	5	9000	類
慰勞金			4474	類	316	類		5299	類
雇員給			1165	類		類		1435	類
事務雇	4000	2	8000	類	284	類	2	8284	類
技術雇	6500	5	32500	類		類	5	4225	類

雜費	電話交換手	小使	給仕	仕部	被服費	臨時職及人夫使	自動運轉手	便括交換手	製本職	小使	給仕	仕部	備人料
一 二	一 二	一 二	三 五	四 〇			九 〇	三 二	四 九	三 八	一 八	四 二	
〇 〇	〇 〇	〇 〇	〇 〇	〇 〇			〇 〇	〇 〇	〇 〇	〇 〇	〇 〇	〇 〇	
	四	六	一 〇	四			三	四	二	六	一 〇	四	
一、 五 三 六	四 八	七 三	二 五 〇	一 六 〇	五 三 〇	二 七 〇	一 二 八 〇	九 八 〇	二 二 八 〇	一 八 〇 〇	一 六 八 〇	一 七 三 〇	一、 七 三 〇
〇 三 七 六		〇 一 二	〇 五 〇		〇 六 二					〇 三 八 〇	〇 二 三 六 〇		〇 七 四 〇
								一	一	二	三	二	
一、 九 二 一	一 二	二 四	七 五	一 〇	一 九 一		二 四 〇	三 六 七 〇	五 七 〇	四 〇 五	六 三 〇	三、 二 四 二	
一、 三、 〇 八 一	六 〇	八 四	二 七 五	三 四 〇	六 五 九		三 七 〇	一、 五 二 〇	一、 三 四 七 〇	三、 四 七 〇	一、 八 四 五	二、 三 一 〇	三、 一 九 二

科目	單價	昭和十七年度豫算額		追加豫算額	昭和十七年度豫算額	
		原額	減額		原額	減額
翻譯料	一〇〇〇	一、二〇〇		三、七五		一、五七五
諸謝金		一、二〇〇				一、二〇〇
寫字料		六〇〇		三、七五		九、七五
實指直料	二五	九一				九一
仕部同	二五	一八二		六九		二五一
小使同	二〇	二一九		五五		二七四
舟車費	四〇	二、四〇〇		二五〇		六、五〇
水料	一〇	一九八	一〇	二四	一八八	二一一
諸雜費		六、四四六	三、六六	七、七三		六、八五三
借地料		三、〇〇〇		〇		三、〇〇〇
委託調査費		一、〇〇〇		一、五〇〇		二、五〇〇

第六條ノ二 案ノ一

○總力戰研究所所在地外ヨリ入所ヲ命ゼラレタル研究生中特別ノ事情  
アル者ニ對シ内閣ヨリ毎月一定額ノ手當ヲ支給スルコトヲ得

案ノ二

○總力戰研究所所在地外ヨリ入所ヲ命ゼラレタル研究生ニシテ特別ノ  
必要アリト認めタル者ニ對シ内閣ヨリ毎月一定額ノ手當ヲ支給スル  
コトアルベシ

案ノ三

○特別ノ必要アリト認めタルトキハ總力戰研究所所在地外ヨリ入所ヲ命  
ゼラレタル研究生ニ對シ内閣ヨリ毎月一定額ノ手當ヲ支給スルコトアル  
ベシ

手當支給ニ關スル説明 (總力戰研究所、高山事務官談)

一、昨年ノ實例ニ依レバ、臺灣總督府及朝鮮總督府ヨリ入所ヲ命ゼラレタル研究生ハ家庭ガ二分セラル、爲、家族ノ生活ニ困窮セリ。一家東京ニ引越サントスレバ引越料ニ莫大ナル費用ヲ要スルト、研究終了後本來ノ任地へ歸還シタル後ノ住所ヲモ確保シ置カザルベカラザルトニ依リ益々經濟的困難ヲ感ジタリ。

二、右實情ニ鑑ミ、本年ハ豫算ノ範圍内ニ於テ、左記研究生ニ對シ毎月百五十圓ノ滞在費ヲ支給セントスルモノナリ。

北支ヨリ來タレル研究生	一人
滿洲國ヨリ來タレル研究生	二人
臺灣總督府ヨリ來タレル研究生	一人
朝鮮總督府ヨリ來タレル研究生	一人
合計五人	

身

三 現在ノ處、右以外ノ研究生ハ全テ東京ニ生活ノ本據ヲ有スルモノナ  
ルモ、將來ノ問題トシテ外地以外ニ於テモ、家族ト生活ヲ異ニセザ  
ルベカラザル事情アル者（例ヘバ内地ノ東京以外ノ府縣）ニ對シテ  
モ時ニ必要アル場合ハ支給致シ度キ所存ナリ

四 但シ本手當ハ飽ク迄家族ト生活ヲ異ニスル場合ノ生計費補助ナルヲ  
以テ例ヘバ左記ノ如キ場合ニハ之ヲ支給セズ

ノ文部省直轄學校教師タル者私立學校教師トシテ手當ヲ得生計ノ補  
助トシタリシ處研究生トナリタル爲右講師ヲ辭セザルベカラザル

ニ至リ、爲ニ收入ノ減シタル如キ場合

又官吏ニシテ従前頻繁ナル出張アリテ多額ノ旅費ヲ得タル者研究生  
トナリタル爲收入減シタル如キ場合

3 會社員ニシテ月額旅費其ノ他勤務上ノ諸手當ヲ得居ルタル者研究  
生トナリタル爲收入減シタル如キ場合。

内

閣



(参考)

○臨時教員養成所規程

第十九條 特別ノ必要アリト認めタルトキハ生徒ニ學費ヲ支給スルコトアルベシ

○開拓醫學生規則（昭和十五年拓務省令）

第八條 開拓醫學生ニハ毎月一定額ノ學費ヲ支給ス

前項ノ學費ハ毎月請求ニ依リ之ヲ支給ス但シ支給スベキ期間ガ一月ニ滿タザルトキハ其ノ學費ハ日割ヲ以テ計算ス

○朝鮮總督府農業土木技術員養成所規程（昭和十六年朝鮮總督府令）

第八條 第一種講習生ニハ學費トシテ手當ヲ給ス但シ官公署、水利組

合又ハ水利組合聯合會ノ職員ニ付テハ此ニ限ニ在ラズ

前項ノ手當ハ月額七十五圓以內ニ於テ所長之ヲ定ム

第一項ノ手當ノ支給ニ付テハ朝鮮總督府及所屬官署雇員規程  
ヲ準用ス

○遞信業務傳習生養成規則（大正二年朝鮮總督府訓令）

第十二條 傳習生ニハ養成期間中手當ヲ給與スルコトヲ得其ノ金額ハ  
遞信局長之ヲ定ム

陽田 第二〇六號

案 起

昭和十七年五月十一日

我 可 昭 和 年 月 日 施  
決 定 昭 和 十 七 年 五 月 十 三 日 行

昭 和 年 月 日

内閣總理大臣

*(Handwritten signature)*

内閣書記官長

*(Handwritten signature)*

内閣書記官

*(Seal)*

特許局及中央航空研究所内閣移管ニ伴ヒ其ノ事務處理及文書取扱ニ  
關シ左ノ通牒相成然ルベシ

追テ本件左記事項第五號ニ關聯シ内閣官房、技術院、特許局及中  
央航空研究所間ノ事務運行ニ關スル諒解事項別添ノ通決定相成然  
ルベキ哉

案

昭和十七年五月十三日

内

局

内閣書記官長

特許局長官

宛（各通）

中央航空研究所長

（技術院經由）

貴局事務處理並文書取扱ニ關シ左記ノ通御承知相成度命ニ依リ通牒ニ及ビ候

記

一、分課規程ノ制定及改廢ハ其ノ都度内閣總理大臣ニ上申シ其ノ決裁ヲ仰グコト（官報公示ハ内閣官房總務課ニ於テ取扱フモノトス）  
二、主管事項中重要ナルモノハ總テ内閣總理大臣ニ上申シ又ハ閣議ノ決定ヲ請フコト

閣議ノ決定ヲ請フベキモノハ其ノ旨内閣總理大臣ニ上申スルモノ

トス

三、法律勅令ノ制定又ハ改廢ヲ要スルモノハ内閣總理大臣ノ請議案トシテ上申スルコト

四、文書處理方法左記ノ通

(一) 内閣總理大臣、内閣書記官長又ハ内閣ニ宛テタル書類ハ總テ内閣官房總務課ニ於テ接受ス其ノ特許局（中央航空研究所）ニ於テ調査起案ヲ要スルモノハ之ヲ其ノ局（所）ニ回付ス

(二) 内閣總理大臣又ハ内閣書記官長ノ決裁ヲ經ベキ書類ハ内閣官房總務課ニ送付スルコト

(三) 内閣總理大臣又ハ内閣名ヲ以テ外部ニ發スル書類ハ原則トシテ内閣官房總務課ヨリ之ヲ發ス其ノ特許局（中央航空研究所）ノ起案ニ係ルモノハ發送後書類（原謄）ハ其ノ局（所）ニ回付ス

(四) 一般ニ文書ノ發送ニ付テハ左記事項留意ノコト

(イ)内閣總理大臣又ハ内閣書記官長宛發スル公文書ハ宛名人ニ於テ必ず直接開封スルヲ要スル祕密文書ノ外總テ之ヲ内閣官房總務課宛送付スルコト

(ロ)發送文書ノ封筒ニハ宛名人ニ於テ必ず直接開封スルヲ要スル場合ノ外之ニ「親展」ノ表示ヲ爲サザルコト

(ハ)總テ書類ニハ當該公文書ノ交渉主任者ヲ欄外其ノ他適當ノ所ニ附記スルコト但シ主任者ノ判然セル人事ニ關スル書類又ハ單ニ通報ニ屬スル輕微ナルモノハ之ヲ省略スルモ可ナリ

五前各號ニ依リ發スル文書ハ必要ニ依リ技術院ヲ經由スルコト

四文書類別式ニ依リテ

ニテ

三

一

内閣官房、技術院、特許局及中央航空研究所  
間ノ事務運行ニ關スル諒解事項（案）

（昭和一七五十三決定）

本諒解事項決定ノ上ハ其ノ寫ヲ技術院、  
特許局、中央航空研究所へ各一通送付  
ノコトト致度

研究所所管事務ニ關シ其ノ局、所ヨリ内閣總  
閣書記官長若ハ内閣官房ニ提出スベキ左記  
ルコト此ノ場合ニ於テハ各其ノ寫ヲ添附ス

（一）閣議請議案

（二）分課規程ノ制定及改廢

（三）特許局長官又ハ中央航空研究所長ノ代決又ハ委任等ニ關スル事  
項ノ制定又ハ改廢

（四）議會答辯資料

（五）高等官ノ任免（勅任官ノ陞等ヲ含ム）、休職、復職及補職（課

内閣官房、技術院、特許局及中央航空研究所  
間ノ事務運行ニ關スル諒解事項（案）

（昭和一七五十三決定）

一、特許局又ハ中央航空研究所所管事務ニ關シ其ノ局、所ヨリ内閣總理大臣ニ上申シ又ハ内閣書記官長若ハ内閣官房ニ提出スベキ左記事項ハ技術院ヲ經由スルコト此ノ場合ニ於テハ各其ノ寫ヲ添附スルコト

（一）閣議請議案

（二）分課規程ノ制定及改廢

（三）特許局長官又ハ中央航空研究所長ノ代決又ハ委任等ニ關スル事項ノ制定又ハ改廢

（四）議會答辯資料

（五）高等官ノ任免（勅任官ノ陞等ヲ含ム）、休職、復職及補職（課



長以上)

(六) 職員ノ外國出張

(七) 鑛工業關係學校卒業生配當ニ關スル事項

(八) 勅令ニ基ク委員會、調査會ノ職員ノ命免

(九) 諸給與ニ關スル内規

(十) 豫算及實行豫算(物資豫算ヲ含ム)

(十一) 會計上ノ諸規則諸令規ノ制定及改廢

(十二) 會計決算上重要ナル事項

(一) 決算報告

(二) 國有財産ノ増減報告

(三) 會計検査院推問ニ關スル事項

前項以外ノ事項ニシテ重要又ハ異例ナルモノハ其ノ都度協議シ其ノ取扱ヲ定メ、輕易ナルモノハ其ノ局、所ヨリ直接上申シ又ハ提

出スルコト

三、特許局又ハ中央航空研究所ヨリ直接内閣總理大臣ニ上申シ又ハ内閣書記官長若ハ内閣官房ニ提出シタル事項ニシテ必要ト認ムルモノハ其ノ局、所ヨリ之ヲ技術院總裁ニ報告スルコト

三、内閣ヨリ特許局又ハ中央航空研究所へ發スベキ訓令通牒等ニシテ特許局及中央航空研究所ヨリ技術院ヲ經由シ内閣總理大臣ニ上申シ又ハ内閣書記官長若ハ内閣官房ニ提出スル事項及重要若ハ異例ナル事項ニ關スルモノハ技術院ヲ經由シ、特許局又ハ中央航空研究所ヨリ直接上申シ又ハ提出スル事項ニ關スルモノハ直接其ノ局、所へ發スルモノトス

「参照」

技術院經由チ省略シ得ル事項例（案）

一、叙位、叙勳、恩給及兵事等ニ關スル事項

一、勅任官ノ内國出張

一、特別賞與

一、職員ノ要認許可事項

例、民間團體ノ役員就任

私立學校講師受諾

記念品、金員等ノ受領

一、勅令ニ依ラザル委員會、調査官職員ノ命免

一、支出委任ノ協議

一、豫算ノ流用更定

一、國有財産ノ取得、讓渡

諒解事項ハ技術院、特許局、中央航空研究所ノ三者ニ於テ一應協議  
整ヒタルモノトシテ昭和十七年四月二十八日内閣官房總務課長ノ許  
ニ持參セル案ニ對シ内容及字句ヲ若干整理シ更ニ右三者ニ示シ具存  
ナキ旨ノ回答ヲ得タルモノナリ（昭和十七年五月十一日）

諒解事項 (案)

(一) 左記事項ハ内閣總理大臣宛トシ技術院ヲ經由上申ノコト但シ寫添付ノコト

一、官制及分課規程ノ制定、改正及廢止等

一、特許局及中央航空研究所ノ所管事項ニシテ内閣總理大臣ノ決裁ヲ要スベキ事項中特許局長官及中央航空研究所長ノ代決、專決、委任等ニ關スル事項ノ制定、改正及廢止等

一、議會答辯資料

一、高等官ノ任免 (任免、補職、休復職) (註 補職ハ課長以上ノ補職ノ意)

技術院、特許局、中央航空研究所三者間ニ協議調ヒタル案  
昭和十七、四、二八受

- 一、陞等及高等官ノ昇級（註 陞等ハ勅任陞等ノ意）
- 一、高等官ノ年末年度末等賞與
- 一、外國出張
- 一、鑛工業關係學校卒業者配當ニ關スル事項
- 一、勅令ニ基ク委員會、調査會職員ノ命免
- 一、諸給與ニ關スル内規
- 一、豫算及實行豫算（物資豫算及豫算定員等ヲ含ム）
- 一、會計上ノ諸規則諸令規ノ制定、改正及廢止
- 一、會計決算上重要ナル事項
- イ、決算報告
- ロ、國有財産ノ増減報告

ハ、會計検査院推問ニ關スル事項

(二)右以外ノ事項ニシテ重要又ハ異例ナルモノハ其ノ都度協議シ其ノ取扱ヲ定メ輕易ナルモノハ直接内閣ニ上申スルコト但シ必要ト認ムルモノハ技術院總裁ニ報告スルモノトス

(三)特許局及中央航空研究所ヨリ技術院ヲ經由シ上申スル事項及重要若ハ異例ナル事項ニ關シテハ内閣ヨリ技術院ヲ經由シ、特許局及中央航空研究所ヨリ直接内閣ニ送致スル事項ニ關シテハ内閣ヨリ直接其ノ局所宛發送スルコト

内

閣

「参照」

技術院經由チ省略シ得ル事項（案）

- 一、敘位、敘勳、恩給及兵事等ニ關スル事項
- 一、勅任官ノ内國出張
- 一、特別賞與
- 一、職員ノ要認許可事項

例、民間團體ノ役員就任

私立學校講師受諾

記念品、金員等ノ受領

- 一、勅令ニ依ラザル委員會、調査會職員ノ命免
- 一、支出委任ノ協議
- 一、豫算ノ流用更定
- 一、國有財産ノ取得、讓渡

内

閣



朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ技術院  
官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ  
ム

### 御名 御璽

昭和十七年一月三十日  
（一月三十一日）  
内閣總理大臣 東條 英機

勅令第四十一號

#### 技術院官制

第一條 技術院ハ内閣總理大臣ノ管理ニ屬  
シ科學技術ニ關スル國家總力ヲ綜合發揮  
セシメ科學技術ノ刷新向上就中航空ニ關  
スル科學技術ノ躍進ヲ圖ルヲ以テ目的ト  
ス

第二條 技術院ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 國策遂行ニ必要ナル科學技術ノ躍進  
ヲ圖リ且之ニ關スル各廳事務ノ調整新  
一ヲ圖ルコト
- 二 科學技術ノ水準向上ニ關スル各廳事  
務ノ調整統一ヲ圖ルコト
- 三 科學技術ノ動員ニ關スル各廳事務ノ  
調整統一ヲ圖ルコト

四 科學技術ニ關スル民間試驗研究機關  
ノ助成及指導ニ關スルコト

五 工業標準化及工業品ノ規格統一ニ關  
スルコト

六 内外ノ科學技術及之ニ關スル資源ノ  
調査ニ關スルコト

前項ノ事務ヲ行フニ付必要アルトキハ技  
術院ハ關係各廳ニ對シ資料ノ提出又ハ說  
明ヲ求ムルコトヲ得

第三條 技術院ニ左ノ職員ヲ置ク

- 總裁 親任
- 次長 一人 勅任
- 秘書官 專任一人 奏任
- 參技官 專任五十人 奏任  
内六人 奏任  
ト爲ス  
コトヲ得
- 理事官 專任一人 奏任
- 參技官補 專任六十六人 判任
- 屬 專任六人 判任

第四條 前條ノ職員ノ外内閣總理大臣ノ奏  
請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ  
於テ參技官ヲ命ズルコトヲ得

第五條 技術院ニ總裁官房及四部ヲ置ク  
部長ハ勅任參技官ヲ以テ之ニ充ツ

總裁官房及各部ノ事務ノ分掌ハ内閣總理  
大臣之ヲ定ム

第六條 技術院ニ參與ヲ置キ院務ニ參與セ  
シム

參與ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各  
廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第七條 總裁ハ院務ヲ統理シ所部ノ職員ヲ  
指揮監督シ判任官ノ進退ヲ專行ス

第八條 次長ハ總裁ヲ佐ケ院務ヲ掌理ス

第九條 秘書官ハ總裁ノ命ヲ承ケ機密ニ關  
スル事務ヲ掌ル

第十條 參技官ハ上官ノ命ヲ承ケ科學技術  
ノ刷新向上ニ關スルコトヲ掌ル

第十一條 理事官ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ヲ  
掌ル

第十二條 參技官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ科  
學技術ノ刷新向上ニ關スルコトニ從事ス

第十三條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從  
事ス

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和十七年一月三十一日迄ハ第三條ノ規定  
ニ拘ラス參技官ハ專任三十人（内四人ヲ勅  
任ト爲スコトヲ得）、參技官補ハ專任三十人  
ヲ以テ定員トス

●特許局官制

大正十一年一月十日  
勅令第二二號

特許局官制

第一條 特許局ハ<sup>内閣總理</sup>商工大臣ノ管理ニ屬シ發明、實用新案、意匠及商標ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 特許局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官

勅任

事務官

專任二十五人<sup>四</sup>

奏任<sup>内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得</sup>

理事官

專任二人

奏任

技師

專任百十人

奏任<sup>内四人ヲ勅任ト爲スコトヲ得</sup>

屬

專任七十八人

判任

技手

專任七十<sup>二</sup>人

判任

第三條 特許局ニ長官官房及左ノ五部ヲ置ク

審判部

審査第一部

内  
局

審査第二部

審査第三部

審査第四部

長官官房ニ於テハ人事、文書、會計、調査及公報ニ關スル事務、發明、實用新案、意匠及商標ノ指導獎勵ニ關スル事務並ニ他ノ主掌ニ屬セザル事務ヲ掌ル

審判部ニ於テハ抗告審判及審判ニ關スル事務ヲ掌ル

審査第一部ニ於テハ出願及登録ニ關スル事務並ニ意匠及商標ノ審査ニ關スル事務ヲ掌ル

審査第二部ニ於テハ機械工業ニ關スル發明及實用新案ノ審査ニ關スル事務ヲ掌ル

審査第三部ニ於テハ化學工業ニ關スル發明及實用新案ノ審査ニ關スル事務ヲ掌ル

審査第四部ニ於テハ電氣工業ニ關スル發明及實用新案ノ審査ニ關ス

ル事務ヲ掌ル

技術院總裁

第四條 長官ハ商工大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ總理シ部下ノ職員ヲ指揮監督シ判任官以下ノ進退ヲ專行ス

第五條 削除

第六條 各部ニ部長ヲ置キ事務官及技師ヲ以テ之ニ充ツ部長ハ上官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第七條 特許局ニ抗告審判官、審判官及審査官ヲ置ク

抗告審判官ハ長官、事務官及技師ヲ以テ之ニ充テ抗告審判ヲ掌ル  
審判官ハ事務官及技師ヲ以テ之ニ充テ審判ヲ掌ル  
審査官ハ事務官、理事官及技師ヲ以テ之ニ充テ上官ノ命ヲ承ケ審査ヲ掌ル

第八條 事務官及理事官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第九條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十條 特許局ニ審査官補ヲ置キ屬及技手ヲ以テ之ニ充ツ

審査官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ審査官ヲ助ケテ審査ニ従事ス

第十一條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十二條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

第十三條 特許局ニ陳列館ヲ置キ發明、實用新案、意匠及商標ニ關スル見本及雛形ヲ蒐集陳列シ公衆ヲシテ之ヲ觀覽セシム且抗告審判、審判及審査ニ關スル圖書及書類ヲ保管シ公衆ヲシテ之ヲ閱覽セシム陳列館長ハ事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

附 則

本令ハ大正十一年一月十日ヨリ之ヲ施行ス

●中央航空研究所官制

中央航空研究所官制

第一條 中央航空研究所ハ内閣總理大臣ノ管理ニ屬シ航空及航空機ニ關スル技術ノ綜合的研究ヲ掌ル

中央航空研究所ハ官廳又ハ民間ヨリ航空又ハ航空機ニ關スル研究ニ付依頼アルトキハ前項ノ規定ニ依ル事務ニ妨ヲキ限リ研究ノ委囑ニ應ジ又ハ其ノ設備ヲ利用セシムルコトヲ得

第二條 中央航空研究所ニ部及課ヲ置ク

部及課ノ事務ノ分掌ハ内閣總理大臣之ヲ定ム

第三條 中央航空研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

勅任

部長

研究官

專任十八人

奏任

内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

事務官

専任一人

奏任

技師

専任一人

奏任

屬

専任十六人<sup>五</sup>

判任

技手

専任四十八人<sup>四</sup>

判任

第四條

所長ハ~~選~~技術院總裁<sup>大</sup>申ノ指揮監督ヲ承ケ

所務ヲ統理シ所屬職員ヲ指

揮監督~~ス~~シ判任官以下ノ進退ヲ專行ス

第五條

部長ハ勅任研究官ヲ以テ之ニ充ツ所長ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理

ス

第六條

研究官ハ上官ノ命ヲ承ケ航空及航空機ニ關スル技術ノ研究ヲ

掌ル

第七條

事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第七條ノ二

技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第八條

屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第九條

技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和十三年勅令第四百十三號及中央航空研究機關設立委員會官制ハ之  
ヲ廢止ス

内  
閣



一〇

閣下第二二二號

案起

昭和十七年五月

日

閣議決定

昭和十七年五月十二日

施行

昭和

年

月

日

內閣總理大臣



內閣書記官長

山

內閣書記官

外務大臣

吉

海軍大臣

五

商工大臣

五

厚生大臣

係

內務大臣

春

司法大臣

五

遞信大臣

五

陸軍大臣



大藏大臣

興

文部大臣

五

鐵道大臣

五

陸軍大臣



農林大臣

五

拓務大臣

五

別紙

香港占領地ニ於ケル經濟處理ニ

関スル件  
右閣議ニ供ス

通牒案

昭和十七年五月二十日

内閣書記官長

外務、大藏、陸軍、海軍、農林、商工、鐵道

逓信、拓務各大臣

企畫院總裁、興産院總裁

（宛者通）

香港占領地ニ於ケル經濟處理ニ關スル件  
別紙ノ通閣議決定相成候條命ニ依リ  
通牒ニ及ビ候

内

閣

極秘

昭和一七五二二  
閣議決定案

香港占領地ニ於ケル經濟處理ニ關スル件

香港占領地ニ於ケル經濟處理ノ中央ニ於ケル企畫及統制ニ關スル事項

ヲ審議立案スル爲内閣ニ香港經濟委員會ヲ設置ス

本委員會ノ構成ハ興亞院連絡委員會ト同様トシ其庶務ハ興亞院ニ於テ

之ヲ掌ル

本委員會ニ於テ審議セル事項ハ陸軍中央部ヨリ之ヲ現地ニ示達ス

說 明

南方占領地ニ於ケル經濟處理ノ企畫及統制ニ關シテハ第六委員會之カ  
審議立案ニ任シアル所香港占領地ニ對シテハ現在陸軍省自体之ヲ擔任  
シ實行ニ移シアリテ他トノ連絡協調動モスレハ不完全トナルノ虞レア  
リ

而シテ香港ハ經濟問題ニ關シテハ支那ト密接ナル連繫ヲ有シアル爲第  
六委員會ヨリモ興亞院連絡委員會ト全様ナル構成ヲ以テ之カ審議立案  
ニ當ルヲ適當トス

又右審議事項ヲ現地ニ示達スルハ軍政主擔任タル陸軍中央部之ニ任ス  
ルヲ當然ナリトス

閣田二一五

昭和七年五月十九日

内閣書記官長

並

内閣書記官

和

橋

佐藤

雅

昭和七年五月十九日

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

青

海軍大臣

五

商工大臣

五

厚生大臣

壽

内務大臣

春

司法大臣

五

逓信大臣

五

鈴木國務大臣



大藏大臣

興

文部大臣

五

鐵道大臣

五

陸軍大臣



農林大臣

五

拓務大臣

五

大東亞建設審議會官制中改正ノ件命ニ依リ

一一一

法司

起案上申ス依テ別紙ノ通閣議決定セラレ可然  
ト認ム

勅令案

別紙ノ通

朕大東亞建設審議會官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十七年 五月 二十三日

内閣總理大臣

勅令第五百三十四號

大東亞建設審議會官制中左ノ通改正ス

第二條中「委員四十人以内」ヲ「委員五十人以内」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



理由

大東亞建設審議會ノ調査審議ノ完璧促進ヲ期スル爲委員數ヲ増加スルノ必要アルニ依ル

法制局 第二二七號

昭和十七年五月十八日

主任 文書課 高橋 文書課長

企畫院上申第一六二號

昭和十七年五月十八日

法制局

企畫院總裁 鈴木 貞



內閣總理大臣 東條 英機 殿

大東亞建設審議會官制中改正勅令案ニ關スル件

大東亞建設審議會官制中改正勅令別紙案ノ通制定公布方御取計相煩度此段及上申候

附甲二一五

内

今校

8

朕大東亞建設審議會官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十七年五月 日

内閣總理大臣 東條英機

内

閣

勅令第

號

大東亞建設審議會官制中左ノ通改正ス

第二條中「委員四十人以内」ヲ「委員五十人以内」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内閣

理 由

大東亞建設審議會ノ審議ヲ促進スル爲委員ヲ増員シ四十人以内トアル  
ヲ五十人以内ト改ムルノ要アルニ由ル

内  
閣

參考

朱書(如リ)改リ

大東亞建設審議會官制 (昭和十七年二月二十一日公布 勅令第九十五號)

第一條 大東亞建設審議會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジテ大東亞建設ニ關スル重要事項(軍事及外交ニ關スルモノヲ除ク)ヲ調査審議ス

大東亞建設審議會ハ前項ノ事項ニ付内閣總理大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 大東亞建設審議會ハ總裁一人及委員<sup>五</sup>十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 總裁ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ 委員ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ之ヲ勅命ス

第四條 委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ得

第五條 總裁ハ會務ヲ總理ス

總裁事故アルトキハ内閣總理大臣ノ指名スル國務大臣其ノ職務ヲ代理ス

第六條 内閣總理大臣ハ必要ニ依リ大東亞建設審議會ニ部會ヲ置キ其ノ所掌事項ヲ分掌セシムルコトヲ得

部會ニ部會長ヲ置ク内閣總理大臣ノ指名スル國務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

部會ニ屬スベキ委員ハ總裁之ヲ指名ス

第七條 國務大臣ハ爾時會議ニ出席シテ意見ヲ開陳スルコトヲ得

第八條 内閣總理大臣必要アリト認ムルトキハ專門委員其ノ他適當ト

認ムル者ヲシテ會議ニ出席シ意見ヲ開陳セシムルコトヲ得

第九條 大東亞建設審議會ニ專門ノ事項ヲ調査セシムル爲專門委員ヲ置クコトヲ得

專門委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各職高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

專門委員ハ當該專門ノ事項ニ關スル調査終了シタルトキハ退任ス

第十條 大東亞建設審議會ニ幹事長、幹事及幹事輔佐ヲ置ク

幹事長ハ企畫院總裁ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事輔佐ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事長、幹事及幹事輔佐ハ上司ノ命ヲ承ケ會議事項ニ付調査及立案ヲ掌ル

第十一條 大東亞建設審議會ノ庶務ハ企畫院之ヲ掌ル

幹事輔佐ハ前項ノ庶務ニ參與ス

第十二條 本令ニ定ムルモノ、外大東亞建設審議會ニ關シ必要ナル事項ハ內閣總理大臣之ヲ定ム

附則



本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

參照

朕大東亞建設審議會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十七年二月二十日

内閣總理大臣 東條 英機

勅令第九十五號(官報二月二十一日)

大東亞建設審議會官制

第一條 大東亞建設審議會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジテ大東亞建設ニ關スル重要事項(軍事及外交ニ關スルモノヲ除ク)ヲ調査審議ス

大東亞建設審議會ハ前項ノ事項ニ付内閣總理大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 大東亞建設審議會ハ總裁一人及委員四十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 總裁ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ之ヲ勅命ス

第四條 委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ

事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ得

第五條 總裁ハ會務ヲ總理ス

總裁事故アルトキハ内閣總理大臣ノ指名スル國務大臣其ノ職務ヲ代理ス

第六條 内閣總理大臣ハ必要ニ依リ大東亞建設審議會ニ部會ヲ置キ其ノ所掌事項ヲ分掌セシムルコトヲ得

部會ニ部長ヲ置ク内閣總理大臣ノ指名スル國務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 國務大臣ハ隨時會議ニ出席シテ意見ヲ開陳スルコトヲ得

第八條 内閣總理大臣必要アリト認ムルトキハ專門委員其ノ他適當ト認ムル者ヲシテ會議ニ出席シ意見ヲ開陳セシムルコトヲ得

第九條 大東亞建設審議會ニ專門ノ事項ヲ調査セシムル爲メ專門委員ヲ置クコトヲ得

專門委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ



専門委員ハ當該専門ノ事項ニ關スル調査  
終了シタルトキハ退任ス

第十條 大東亞建設審議會ニ幹事長、幹事  
及幹事輔佐ヲ置ク

幹事長ハ企畫院總裁ヲ以テ之ニ充ツ  
幹事ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各  
廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣  
ニ於テ之ヲ命ズ

幹事輔佐ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關  
係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ  
命ズ

幹事長、幹事及幹事輔佐ハ上司ノ命ヲ承  
ケ會議事項ニ付調査及立案ヲ掌ル

第十一條 大東亞建設審議會ノ庶務ハ企畫  
院之ヲ掌ル

幹事輔佐ハ前項ノ庶務ニ參與ス

第十二條 本令ニ定ムルモノノ外大東亞建  
設審議會ニ關シ必要ナル事項ハ内閣總理  
大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

閣甲第二四八號

案起	昭和十七年六月二日
裁可	昭和十七年六月二日
決定	昭和十七年六月二日
施行	昭和十七年六月二日

內閣總理大臣

內閣書記官長

內閣書記官

案 (一)

昭和十七年六月二日 (六月二日附)

內閣書記官長

各省大臣 (宛 (各通))

內閣及各省ニ委員設置ニ關スル件

內閣及各省ニ委員設置ニ關スル件要綱別紙ノ通閣議決定相成候條

一二

命ニ依リ通牒ニ及ビ候

案 (二)

昭和十七年六月二日 (六月二日附)

内閣書記官長

内閣東北局長

法制局長官

企畫院總裁

對滿事務局總裁

情報局總裁

興亞院總裁

技術院總裁

宛 (各通)

案 (一)ニ同ジ



内閣及各省ニ委員設置ニ關スル件要綱

(一七六二)

一 新政治力ノ結集ニ即應シ、帝國議會議員其ノ他民間ノ知能經驗ヲ行政各部ニ動員シ、官民協力體制ノ強化ヲ圖リ、行政能率ノ増進ヲ期スル爲有效適切ナル方途ヲ講ズルコト

一 右ニ關スル一方策トシテ内閣及各省ニ委員ヲ置クコトトスルコト

一 委員設置要綱左ノ如シ

(一) 内閣ニ内閣委員、各省ニ夫々各省委員（例へバ内務省委員ト謂フガ如シ）若干人宛ヲ置クコト但シ陸軍省及海軍省ニハ之ヲ置カズ

(二) 委員ハ若干人トシ各廳ノ事務上ノ要請ヲモ考慮シテ適當ノ員數ヲ置クコト

備考

(一) 本件委員制ノ活用ニ件ヒ現行各省政務官制度ハ適當ノ時期ニ之ヲ廢止スルモノトシ之ガ任命ノ奏請ハ之ヲ爲サズ缺員ノ儘トスルコト

(二) 現在ノ各廳ノ顧問、參與及委員ノ存廢ニ付テハ本件委員制ト睨ミ合セテ適宜措置スルコト

(三) 本件委員制ノ活用ニ件ヒ、各種委員會及調査會ノ存廢ニ再檢討ヲ加フルコト

内閣委員及各省委員設置制（案）

第一條 内閣及各省（陸軍省及海軍省ヲ除ク）ニ夫々内閣委員及各省委員若干人ヲ置キ廳務ヲ輔ケシム

第二條 委員ハ夫々内閣總理大臣又ハ各省大臣ノ奏請ニ依リ帝國議會ノ議員及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第三條 委員ノ任期ハ一年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

第四條 委員ハ必要ニ應ジ之ヲ夫々所管部局ニ分屬セシムルコトヲ得

第五條 委員ノ服務ニ付テハ夫々内閣總理大臣又ハ各省大臣ノ定ムル所ニ依ル



委員ハ其ノ職務ニ關シ知得シタル秘密ヲ嚴守スベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

大東亞戰爭ノ完遂ヲ期スル爲官民協力體制ヲ整備強化シ行政事務能率  
ノ増進ヲ圖ル爲帝國議會ノ議員其他民間各方面ヨリ適材ヲ簡拔シテ内  
閣委員及各省委員ト爲シ之ヲシテ廳務ヲ輔ケシムルノ要アルニ依ル

閣甲二五一

昭和七年六月四日

内閣書記官長

五

内閣書記官

昭和七年六月十五日

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

若

海軍大臣

五

商工大臣

五

厚生大臣

得

内務大臣

春

司法大臣

五

逓信大臣

五

鈴木國務大臣



大藏大臣

興

文部大臣

鐵道大臣

五

陸軍大臣



農林大臣

五

拓務大臣

五

内閣委員及各省委員設置制命ニ依リ

三

法制局

起案上申ス依テ別紙ノ通閣議決定セラレ可然  
ト認ム

勅令案

別紙ノ通

内閣總理大臣  
武備局長官

昭和二十一年四月四日

朕内閣委員及各省委員設置制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十七年六月九日

農	文	司	大	内	外	内閣總理大臣
林	部	法	藏	務	務	
大	大	大	大	大	大	
臣	臣	臣	臣	臣	臣	

勅令第五百六十六號

内閣委員及各省委員設置制

第一條 内閣及各省（陸軍省及海軍省ヲ除ク）ニ内閣委員及各省委員若干人ヲ置キ廳務ヲ輔ケシム

委員ハ必要ニ應ジ之ヲ所管部局ニ屬セシムルコトヲ得

厚	拓	鐵	遞	商
生	務	道	信	工
大	大	大	大	大
臣	臣	臣	臣	臣

内閣

第二條 委員ハ内閣總理大臣又ハ各省大臣ノ奏請ニ依リ帝國議會ノ議員及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

委員ノ任期ハ一年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

第三條 委員ノ服務ニ付テハ内閣總理大臣又ハ各省大臣ノ定ムル所ニ依ル

委員ハ其ノ職務ニ關シ知得シタル祕密ヲ嚴守スベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

大東亞戰爭ノ完遂ヲ期スル爲官民協力體制ヲ整備強化シ行政事務能率ノ増進ヲ圖ル爲帝國議會ノ議員其ノ他民間各方面ヨリ適材ヲ簡拔シテ内閣委員及各省委員ト爲シ之ヲシテ廳務ヲ輔ケシムルノ要アルニ依ル



閣第 二五八 號

案 起

昭和十七年六月十二日

裁可昭和 年 月 日 施行  
決定昭和十七年六月十二日 行

昭和 年 月 日

内閣書記官長

内閣書記官

橋

昭和十七年六月十二日 (六月十二日付)

内閣書記官長

各省次官宛

(陸軍、海軍兩次官ヲ除ク)

内閣委員及各省委員職務規程基準及委員  
制度活用ニ関スル件 本日別紙ノ通閣議ノ申合

一四



内閣委員及各省委員服務規程基準

昭和十六年六月二十二日閣議決定

第一 委員ノ職務ハ其ノ知能經驗ヲ舉ゲテ大局的見地ニ立テ積極的ニ  
 廳務ヲ輔ケ、政務事務ノ適正且圓滑ナル運営ニ寄與シ、以テ官民  
 協力ノ實ヲ舉グルト共ニ行政能率増進ヲ圖ルヲ以テ本旨トス

第二 委員ノ職務ノ概目左ノ如シ

- 一 諸般ノ企畫立案ニ付諮問ニ應ジテ意見ヲ開申スルコト
- 二 特ニ委囑セラレタル調査ニ當ルコト
- 三 施政ノ國民生活ニ對スル適應狀況ノ查察等行政ノ考查ニ關シ協  
カスルコト
- 四 請願及陳情ノ處理ニ關シ諮問ニ應ジテ意見ヲ開申スルコト

五 國策ノ普及徹底ニ關スル啓發宣傳ニ當ル等上意下達ニ協力スルコト

六 帝國議會、翼贊政治會、大政翼贊會等トノ連絡ニ當ルコト

第三 委員ハ常時登應スルニ及バザルモノトス

委員ハ所屬廳ノ招請アリタルトキハ已ムヲ得ザル事由ナキ限リ登應スベキモノトス

第四 委員ハ廳議トシテ未ダ確定セザル事項ニ關シ部外ノ者ニ對シテ意見ヲ開陳スル場合ニ於テハ將來各廳ヲ拘束スルガ如キ結果ヲ招來スル虞ナキ様特ニ留意スベキモノトス

第五 委員所屬廳ニ對シ書類ノ呈示ヲ求メ又ハ事務上ノ證明ヲ求メシトスルトキハ文書課長其ノ他之ニ準ズル主務者ヲ經由シテ之ヲ爲スモノトス